



DNW-21011 の概要

課題名：病原性メモリーTh2 細胞を標的とした難治性アレルギー治療薬の探索

主任研究者（Principal Investigator）：

山下 政克 （国立大学法人愛媛大学大学院医学系研究科）

ステージ： 標的検証後期

【標的疾患】

慢性気管支喘息

【創薬標的】

分子 X

【創薬コンセプト】

分子 X の阻害によりエピジェネティック変化に依存した病原性メモリーTh2 細胞の形成や機能発現を制御することで、気道炎症の慢性化を抑制し、IL-4、IL-5、IL-13、IgE 等の原因物質を介する多様な喘息症状を抑える。

【ターゲットプロダクトプロファイル】

単独あるいは既存薬との併用により、既存療法では効果不十分な重症気管支喘息患者における慢性炎症を改善する経口投与可能な低分子医薬品

【モダリティの設定】

低分子化合物

【創薬コンセプトの妥当性を支持するエビデンス】

以下のことが PI らにより明らかにされている。

- 1) 分子 X の阻害薬が病原性メモリーTh2 細胞の形成や機能を抑制する。
- 2) 分子 X の阻害薬がマウス気道炎症モデルにおいて抗アレルギー作用を示す。

【科学的、技術的な優位性】

気管支喘息の根本治療につながる創薬コンセプトであり、分子 X は標的分子としての新規性が高い。好酸球性副鼻腔炎、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎等病原性メモリーTh2 細胞の関与が示唆される他の難治性慢性アレルギー疾患への適応も期待できる。

【支援ステージにおける目標】

創薬コンセプトと標的分子の妥当性の検証

【関連特許】

無し

本資料は、創薬総合支援事業（創薬ブースター）による支援の終了時の情報をもとに作成しています。